

氏名

1 次の——線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- | | | | |
|------------------------|-----|----------------------|-----|
| ①音楽を <u>カナ</u> でる | () | ⑥新商品を <u>センデン</u> する | () |
| ② <u>テンラン</u> カイ | () | ⑦問題の <u>コンカン</u> に迫る | () |
| ③どんな本を <u>ショモウ</u> ですか | () | ⑧ <u>ティアン</u> する | () |
| ④ <u>メンミツ</u> な計画 | () | ⑨ドラマを <u>ロクガ</u> する | () |
| ⑤高校の <u>エンカク</u> を調べる | () | ⑩道路を <u>カクチョウ</u> する | () |

2 次の——線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- | | | | |
|-------------------|-----|-------------------|-----|
| ① <u>発祥</u> の地 | () | ⑥人形を <u>操</u> る | () |
| ② <u>執念</u> を燃やす | () | ⑦商品を <u>卸</u> す | () |
| ③ <u>稚拙</u> な文章 | () | ⑧夜空を <u>仰</u> ぐ | () |
| ④先例を <u>踏襲</u> する | () | ⑨ <u>朗</u> らかな性格 | () |
| ⑤ゆるやかな <u>渦</u> | () | ⑩発展に <u>尽</u> 力する | () |

3 「上達は ならなくなる」という文章の傍線部が、「思いどおりにならなくなる」という意味の慣用的な表現になるように、 内にあてはまる言葉を、ひらがな二字で書きなさい。【香川県】

() ()

4 「充実感をもって打ち込んでいる」ことを表す慣用句として最も適切なものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。【大分県】

- ア 身の毛がよだつ イ 身を入れる ウ 身もふたもない エ 身を固める
- () () () ()

5 「自然セイタイ系」の「セイタイ」を漢字に直したとき、次のどれが正しいか記号で答えなさい。【岩手県】

- ア 生体 イ 成体 ウ 生態 エ 静態
- () () () ()

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

嫌だ、と顔をゆがめた希が、

「だったら、予選だけでもいいよ、先生。予選の一本だけでいいから、走らせて。それで標準記録に届かなかったら、あきらめるから。だから一本だけ走らせてよ」目尻に涙を浮かべて懇願し始めた。

その顔を見ながら、僕は迷った。いや、迷っている時間がなかった。女子千五百メートルのゴールが、すぐにも始まろうとしている。

「お願い、先生。一本だけ」

両手を合わせてすがすがしい目をした希に、わかった、と僕は、うなずいていた。

「ただし、レース中に痛みが酷くなったら、絶対に無理をしないで途中で棄権しろ。それが約束できるなら、予選の一本だけ走っていい」

「ありがと、先生」

嬉しそうに言って、シューズを履こうとした希に、

「ちょっと、待った」と言った僕は、大会中はいつも持ち歩いていてデイベックのフラスナーを開けながら、

「とりあえず、テーピングする」と言うので、

「ゴールに間に合わなくなるってば」無った声が返ってくる。

〈中略〉

「ほら、間に合っただろ」

希に笑いかけてやり、

「それじゃあ、先生はスタンドから見ている。A ようにな」と念を押すと、はい、と返事をした希が、

「先生。ありがと」と言って、ぺこりと頭を下げてから、出場選手たちで混雑している招集所へと向かった。

その後ろ姿を見ながら、いままでにいつもあんな素直でいいんだけどな、と苦笑しつつ、応援スタンドへと足を向けた。

希には笑いかけてやったが、それとは裏腹に僕は激しい後悔に苛まれていた。

20

15

た。
⑨希の故障になぜ気づいてやれなかったのだろう。

確かに、夏休みに入る前の二、三週間は、通知表の作成のみならず、提出する諸表簿の整理や夏休みの課題作りなどで、仕事が無性に忙しくなる。なので、部活を見てやれる時間が、どうしても短くなる。B、それは言い訳にしかない。

明らかにオーバーワークがもたらした故障だった。通信陸上が終わったあとの、希の悔しそうな顔を見ていたのだから、放っておいたら過度な練習をしてしまふのを予想できてしかるべきだった。たぶん希は、いまも続けている朝のランニングの量を増やしたのだろう。ほどほどにするんだぞ、と前から言っていたのだが、もつときりと管理してやるべきだった。それを僕は怠っていた。部活を見てやれる時間が減るとはいっても、皆無というわけではない。二日に一度くらいは、短い時間だったけれどもグラウンドに出ていた。

おそらく希は、僕の姿がグラウンドにあるときは、痛むのを借られないようにしていたのに違いない。だが、たとえそうでも、自らが専門で陸上競技に携わってきたようなきちんとした指導者だったら、彼女の異変を見抜いていたはずだ。それを僕は、できなかった。

（熊谷達也。「リラスの子」より、一部省略があります。）

（注）通信陸上：全日本中学校通信陸上競技大会。

①——線①「両手を合わせてすがすがしい目をした希」とありますが、この時の希の気持ち、文章中の言葉を使って三十字以内で書きなさい。

②Aに入る言葉を、文章中から九字で書き抜きなさい。

③——線②「僕は激しい後悔に苛まれていた」とありますが、この時の「僕」が後悔していることとして、適切ではないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

A 希が足を痛めていることに気づかなかったこと。

I 部活を十分には見てやることができなかったこと。

U 普段から希にやさしく接することができなかったこと。

E 希の練習をしつかり管理してやれなかったこと。

④——線③「希の故障」の理由を「僕」は何だと考えていますか。文章中から五字で書き抜きなさい。

⑤Bに入る言葉を、文章中から選び、記号で答えなさい。

A だから イ しかし ウ また E たとえば

⑥——線④「それ」が指す内容を、文章中の言葉を使って、「たとえば、〜としても、〜こと。」という形で、四十字以内で書きなさい。

40

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

粟津にとどまりて、脚走の二日、京に入る。暗くいき着くべくと、申の時はかりにたちて行けば、関近くなりて、山づらにかりそめるきりかけといふものしたる上より、丈六の仏の、いまだ荒進りにおはするが、顔ばかり見やられたり。あはれに人はなれて、いづこともなくしておはする仏かなとうち見やりて過ぎぬ。ここの国々を過ぎぬるに、駿河の清見が関と、逢坂の関とばかりはなかりけり。いと暗くなりて三条の宮の西なる所に着きぬ。

ひろびろとあたる所の、過ぎ来つる山々にも劣らず、大きにおそろしげなるみやま木どものやうにて、都のうちとも見えぬ所のさまなり。ありもつかず、いみじうものさわがしけれども、いづしかと思ひしことなれば、「物語もとめて見せよ、物語もとめて見せよ」と、母をせむれば、三条の宮に、親族なる人の、衛門の命婦とてさぶらひける、尋ねて、文やりたれば、めづらしがりてよるこびて、御前のをおろしたると、わざとめでたき冊子ども、硯の箱のふたに入れておこせたり。うれしくいみじくて、夜昼これを見るよりうちはじめ、またまたも見まほしきに、ありもつかぬ都のほとりに、誰かは物語もとめて見る人のあらむ。

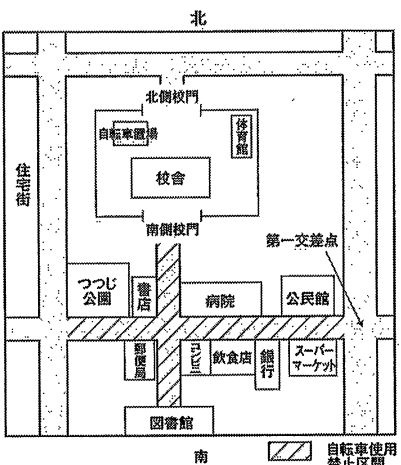
(菅原 幸綱 女「夏経日記」より)

(注) 粟津：滋賀県大津市にある地名。筆者は、上総(現在の千葉県)の国司だった父の任期が終わったに伴い、京都の家に戻る旅の途中である。 山づら：山腹。きりかけといふものしたる上より：板垣といふものをのしたる上から。 丈六：一丈六尺。約五メートル。 人はなれて：人思はず。

いづこともなく：場所柄も構わずに。
いとはかりはなかりけり……ほどしみに残る所はなかつた。
ありもつかず：落ち着くまもない。 いづしかと思ひしこと：待ち望んでいたこと。御前をおろしたると：宮様のお下がりを取り上げたのだと言つて。
わざとめでたき：特別にすばらしい。
これを見るよりうちはじめ：これが読書の臨場味を知ることのきっかけとなつて。またまたも見まほしきに：他の物語も読みたいと思うのだ。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

次は生徒会の小川さんが、全校生徒にお知らせをするために作成した「地図」と「アナウンス原稿」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。



「アナウンス原稿」
今日は、自転車通学をしている方に連絡があります。来週から、自転車での登校、下校が禁止される場所、道路があります。

まず、南側校門からの出入りが禁止になります。現在南側校門からの出入りは可能ですが、A これまでも、自転車と歩行者や通路近くで何かの作業をしている生徒との接触が報告されていました。今後、自転車は、南側校門を通るのをやめて、北側校門から出入りしてください。

次に、登下校で自転車の使用が禁止される道路を説明します。B この道路の近くは、皆さんも知っているとおおり、C そのため、自転車での通行が禁止となりました。

南側の地区に住んでいる自転車通学の皆さんは、来週から、
線

① 線①「京に入る」とありますが、筆者一行が京都に着いたのは何月ですか。漢数字で答えなさい。

② 線②「申の時」とありますが、現在の時刻では何時頃にあたりますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 午前六時ごろ イ 午前十一時ごろ
ウ 午後四時ごろ エ 午後九時ごろ

③ 「居る」の尊敬語にあたる言葉を、文章中から活用した形のまま書き抜きなさい。

④ 線③「三条の宮の西なる所」とありますが、この場所について筆者はどう述べていますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 今まで暮らしていた家と似ているので、親しみがわいた。
イ 大きな木が生えていて、いかにも都の家らしい立派さだ。
ウ 敷地の広さに比べ建物が小さいのでみすばらしい感じだ。
エ 深い山の中のように大きな木が茂り、都の家らしくない。

⑤ 線④「せむれば」とありますが、誰の動作ですか。考えて書きなさい。

⑥ 線⑤「よろこびて」とありますが、誰の動作ですか。具体的な呼び名を文章中から五字で書き抜きなさい。

⑦ 線⑥「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 私以上に物語を読みたい気持ちの強い人は、世間に二人といない。
イ 世の中には物語を探して読んでいる人がきつというはずだ。
ウ きつと誰かが、私のために物語を探してきて見せてくれるだろう。
エ 誰が私に物語を探してきて見せてくれるだろう。(誰もない)

⑧ 線⑦「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 私以上に物語を読みたい気持ちの強い人は、世間に二人といない。
イ 世の中には物語を探して読んでいる人がきつというはずだ。
ウ きつと誰かが、私のために物語を探してきて見せてくれるだろう。
エ 誰が私に物語を探してきて見せてくれるだろう。(誰もない)

⑨ 線⑧「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

⑩ 線⑨「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

⑪ 線⑩「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

⑫ 線⑪「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

⑬ 線⑬「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

⑭ 線⑭「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

⑮ 線⑮「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

⑯ 線⑯「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

⑰ 線⑰「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

⑱ 線⑱「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

⑲ 線⑲「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

⑳ 線⑳「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

㉑ 線㉑「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

㉒ 線㉒「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

㉓ 線㉓「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

㉔ 線㉔「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

㉕ 線㉕「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

㉖ 線㉖「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

㉗ 線㉗「誰かは物語もとめて見る人のあらむ」とありますが、この現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

前回の解答解説

一

解答

- (1) ウ (2) 物欲しそう
(3) 生活のために一生懸命にケーキを作っていること。(23字)
(4) 味と香り (5) エ (6) イ

- (1) あとに続く内容から判断する。お茶をしようという誘いにすぐ返事ができなかったのは、直後の「ケーキを……見えたに違いないと思っ
てしまった」ことが原因。今までの自分の行動が、沙織さんにケーキをこ
うしよう決心させたのではないかと「私」は思ったのである。
(2) 「お金を払います」とは、ただで食べようとは思っていませんということ。
「私」の様子がいとも物欲しそうで、ケーキをただで食べたがっているように
見えたかもしれないが、そうではないのだと主張したかったのである。
(3) 手が荒れるのは水仕事のせい。沙織さんはケーキ屋さんの家で水仕事が多
く、手が荒れているのだと考えられる。つまり荒れた手は苦勞を象徴し、生
活のために一生懸命に仕事をしていることが推測されるのである。「一生懸命」
という言葉を使い、「……こと。」で終わるように書いてあれば可。
(4) 「私」がケーキを口に入れた場面である。52行目以降に注目する。その場面
の中で「撮人法」を使った「二十四字」の部分を探す。「味と香り」に対して
「微笑む」という人間の動作を表す言葉を使っている部分がある。
(5) 64・65行目の「自分が意図地になったこと」「学校や家での嫌なことや、あ
まり楽しい毎日」は負の心情を表す。それらが「幸せな気分」に変わっ
たとある。負の心情から解き放たれたため、楽になったと感じたと考えられ
る。
(6) 「……て、……て、……」の連続でたみかけ、思いがあふれた状態を描写
した一文。圧倒的なおいしさへの感激が、固まっていた「私」の感情を解き
放ち、安堵や、無理をしていた自分への哀れみや、生きる喜びを感じさせ、
感激はいっそう深まり、涙となったのである。

二

解答

- (1) 山のふもとのほう (2) a—すなわち b—ゆえ
(3) 男たちと女 (4) 我 (5) イ

現代語訳

そりを引くには必ず歌を歌う、これをそり歌というがつまりきこりの歌であ
る。歌う節回しも古風で奥ゆかし上品なおもむきがあるものである。父親や
夫が山に入って「仕事をし」そりをひいて帰るときに、遠くから聞こえるそり
歌を聞いて父親や夫が帰ってくるのを知り、そりに出会うところまで迎えて出
て、父親や夫をそりに積んだ薪の上にまたがらせて、妻や娘がそりをひきなが
ら、彼女らもまた（親や夫の声に合わせ）そり歌を歌って帰るなど、飾り気
のない古風（なすばらしさ）が今こにあるのである。（今の時代に）これ（が）
見られるのは、人が多く集まり、にぎやかなさまを知らない片田舎だからで
あろう。

春の気配を感じさせるといふ梅や柳も雪に埋もれて、花も緑もあるのかない
のかわからない様子で暮れていく。しかし二月の空はやはり青く晴れ渡って、
のどかな感で（私が）書物を読んでいるときおりしも遠くにそり歌が聞こえ
てくるのはいかにも春めいた感じであれしいものだ。これは私だけでなく、雪
国の人なら（誰でも）感じることであろう。

- (1) この現代文の筆者は、引用した古文を説明するとき、単純な現代語訳では
なく、古文に解説を加えたり、情景をふくらませたりして述べている。古文
と現代文を対照させて読み、対応関係をおさえる。問いは「歌いだす」とこ
ろを聞いているので、現代文の中からそれに類する表現を探す。すると15・
16行目に「山のふもとのほうに来れば……歌いだします」とある。
(2) aは八行の「は」をワ行の「わ」に直す。bは「あ」を「え」に直す。
(3) ②の「これら」は妻や娘を指し、「これらもまた」とあるのでそれま
で歌っていた「親夫」といっしょに歌ったのだとわかる。つまり「合唱」し
ている光景なのでそれを現代文から探すと、19・20行目に見つかる。
(4) 家の中で書物を読み、そり歌に耳を傾ける人物。これは古文の作者の動作
である。つまり直後にある「我」が動作主。
(5) そり歌を合唱しながら家路につく家族の情景を現代文の筆者は賞賛してい
る。歌う本人たちは家族の絆を強め、周囲で聞く人は春の趣を感じてうれし
くなるからである。そういう幸福感を「心のめぐみ」といっている。

三

解答

- (1) ア
(2) つまききたいじゅうをかけて、あしのゆびでたけをはさむ。
(3) エ

現代語訳

- (1) ①は、②と③の部分に分けて、竹馬の遊び方について説明した資
料。①には、「メモ」の中の「安全な場所で遊ぶ」「裸足、あるいは靴
下で乗る」「子どもが初めて遊ぶときは、大人に竹馬を支えてもらうようにな
す」という注意事項があげてはまる。②には、「少しずつ進めるようになっ
たら、方向転換を試みる」「慣れたら、競走、サッカーなどをしてみるとよ
い」という、上達の場合に合わせた遊び方を説明している。
(2) 竹馬に乗ったら足をどうすればよいかという説明が書かれることがわかる。
「メモ」には「つまきに重心をおき、足の指で竹をはさむ」とあるが、「重
心」など小学校低学年の子どもには伝わりにくい言葉は避けて、「力を入れる」
「体重をかける」などの表現にする。また、他の箇所に合わせて、ひらがなで
「しゅう」のような呼びかける表現で書くこと。
(3) 「メモ」に書かれている中で「資料の下書き」で説明できていないのは、「下
ではなく前を向いて乗る」「あわてずにゆっくり進む」の項目。これを「見て
わかるように示す」には、図・図のように、竹馬で前を見て進んでいるイラ
ストを作成して、「あわてずゆっくりすすむ」などのアドバイスも加えるの
がよい。